

はくさん

自分の道を歩く

第106号 H30年夏号
伊豆市 法住寺 発行

以前からズ〜ウツと訪ねたいと思っていた花巻、宮澤賢治の故郷に行ってきました。町並みは変わっていても大地は変わらず、ふるさとの山は大きくそびえ北上川もどっしり流れています。

花巻に着いてまずは日蓮宗 身照寺さまへ、賢治と宮沢家の菩提寺です。ご宝前で寿量品を拝読、真金院三不日賢居士(賢治)霊位にご回向申し上げ、これから故郷の地を歩かせて頂きますとご挨拶しました。ご住職がお墓を案内してくださり墓参、長年の願いが叶ったのでした。

「寿量の祈り 敬意と感謝」
大自然 ありがとうございます。合掌
社会の皆さん ありがとうございます。合掌
ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます。合掌

その後はのんびりゆったり一人旅3日間、花巻に漬かりました。夕方、賢治さんの弟・清六さんの孫、宮澤和樹さんのお店(林風舎)によると和樹さんが出てきて下さり、コーヒーを共に。和樹さんは賢治さんを語り継いでいる方です。話は尽きず近くに美味しい店があるからと誘われ、お酒を飲みながらお話で、懐かしい昔話をしているような楽しいひと時でした。

賢治のすごいところは、ご本尊さまの世界に入っていくことができ、そこに導いて下さった日蓮聖人に絶対的に帰依していたことでした。この信仰というものを言い表すことは難しいのですが、霊性の世界とこの現実の世界を行ったり来たりでき、真の道が見えるということだと思えます。そして実際に真の自分の道を歩んだことにあると思います。その心象を書いて表す、農民がわかるような形

(童話など)で表現できたことは天才でした。

3日目、携帯が…、お檀家さ



本統(原文)の百姓になる」と北上川河畔の湿地帯を開拓した「下の畑」



んが亡くなったというのです。急ぎよ帰り夕方遅くに枕経をお勤め致しました。亡くなった方は20年前に具合がわるくなり、一生懸命リハビリに励んだのですが、奥さんが側に居なくてはならなくなりま

す。入院していても夜中に奥さんは呼ばれることがあり、顔を見ると落ち着く、それからは夜も病院に付き添ったのです。退院してからも夜中に実家の仏壇にお詣り、お線香を1本上げると安心したり、お寺にお詣りすると落ち着いたり、とことん付き添ったのです。ある時から奥さんは覚悟した、「私でなければ出来ない、これが私の道だ。やれることは全てやろう」と。自分の方が倒れてしまうかもしれない、先に逝ってしまうかもしれない、でもそれはそれ

で良いと思つての覚悟だつたと想う。

私はこのお話を伺いながら、そこに賢治と同じ道を見たのです。「自分の道」、それは輝いて希望に満ちているとは限らない、辛くて苦しくてとても困難な道であるかもしれない、でもこれが真まことと感応する、ご本尊さまの世界に通じたということだと想う。この奥さんの他にも私たちの近くには、自分の道歩んでいられる方がいることを想う、味わい深いことである。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

今日、お寺にいらした若奥さんの話を聞いた。

この方の嫁ぎ先のお義母さんは、認知症が進み施設に居るが、息子さんの顔を見る時だけ満面の笑顔になる…ということを知っていた。何時ぞやそのお姿を拝した時は、この若いお嫁さんにつとまるだろうかとい抹の不安も感じていた。あれから1年余りたつたろうか。何とお義母さんと意思疎通ができるまでになつたという。写真も見せてもら



は思わず涙してしまつた。

彼女自身も仕事を持って働いているのに「施設に通つてお義母さんとボール投げしたり歌を歌つたりして、そのひと時を私自身が楽しみにしているんです」と笑顔で話す人。「真心」つて通ずるんだな。素直に目の前にある現実を受けとめて、その中で自分に何ができるだろうかと行動している人が目の前にいる。

その人は圧倒的な強さと優しさを持って輝いていた。そしてこういう娘さんを育てた母親も素晴らしい!! との想いに至つた。思うにいろいろなご苦勞もあつたと思うが、手

たが、お嫁さんと二人で満面の笑顔で、生き生きとしていないか!! そのことが嬉しくて…という彼女の温かな気持ちがいよいよと伝わってきて、私

を合わせ乗り越えてこそその今がある。

お詣りを終えて帰りゆく母娘の姿を見送りながら、私はとても温かなものに満たされていた。



トピックス

野アザミ

5月の第2墓
地草刈りで、道
路わきの野アザ
ミを刈らずに残
してくれました。
来年は少しアザ
ミが増えるかも
しれません。楽
しみです。

ホタル ブクロ

6月になると
大京道路からの
裏入り口にホタ
ルブクロが咲い
てくれました。草

刈りしようとしたのですが、しばらく様子をみてみると、次から次と咲いてくれます。ホタルブクロも増やして群生させたい野の花です。

かわいい樹木墓

永代供養・寿量の塔に「かわいい 樹木墓」

を新たに設けました。

個人向けと

夫婦や家族向

けの永代供

養・樹木墓で

す。詳しくは

ホームページ

をご覧ください

い。また直接

お問い合わせ

ください。



ジオパーク

伊豆半島が世界ジオパークに認定されました(今年4月)。

伊豆半島は約2000万年前には数百キロ南の海底火山群で、現在のような半島になったの

下白岩ジオサイト 駐車場



は約2000万年前の事だそうです。お寺から歩いて5分の所にジオサイトがあります。

『伊豆

市下白岩

の石灰質

砂岩には、レピドシクリナという大型有孔虫化石をはじめ、海洋性の生物化石が大量に含まれています。この化石は、この地層がたまたった場所が、約1100万年前の南洋であることを示す証拠となっています。

レピドシクリナという生物は熱帯や亜熱

帯の暖かい海に棲む生物です。日本周辺が今よりも暖かかった約1600万年前には日本全国に生息していましたが、その後の寒冷化に伴い、日本周辺からは居なくなりました。ところが、伊豆半島では、約1100

万年前の地層の中からレピドシクリナの化石が見つかっており、地学の世界ではナゾになっていました。(「伊豆半島ジオパーク」ホームページより)』
伊豆半島が南からきたことでこのナゾは解かれたのでした。大型有孔虫と云っても直径1cm弱位の大きさで、顕微鏡で見ると沢山の孔(穴)があり、学術的にも貴重なものだそうです。

お知らせ

寺子屋募集

第14回寺子屋が今年も8月7、8日(火、水)、行います。今年はずいぶりにツリークライミングを行います。修了したOB、OGも集まれ〜!! 詳しくは別紙案内、ホームページをご覧ください。

護法大会

静岡県東部宗

務所主催、護法

大会が開かれま

す。洋明さんは



平成28年 ツリークライミング

スタッフとして準備しています。募集要項は世話人さんまたはお寺までお尋ねください。

9月30日(日) 伊東市観光会館

伊豆連合大題目、当山で

伊豆連合大題目講(山下要会長)の大題目が当山で行われます。皆さんでお誘い合わせて参加してください。

・11月10日(土)午後1時

・法話 加殿・妙國寺 植木和久上人



私たちには必ずご先祖さまがいます。そのご先祖さまを年に一度皆さんのご自宅にお迎えし、皆さんのご供養を気持ちよく受けて

もらい喜んで頂くお盆がもうすぐそこです。今年のご先祖さまに、どう喜んで頂こうと考えるとお盆が楽しみにもなります。

*

先日アスリートの信者さんたちと七面山へお参りし参籠して来ました。初めは七面大明神へ日々の報恩感謝と自らの願いを持って登るのですが、登るにつれて最後には参加者全員が無事に登れます様に、下るにつれ皆が最後まで事故なく怪我無く下山出来ます様にと願うものです。自分より一緒にお参りをした方の事を願えることは七面山の魅力の一つです。

*

七面山のお詣りの参道は、山道であり、母の産道。この娑婆世界から七面大明神の胎内へ一度戻り、そこで新たな自分に生まれ変わり、蘇生して、また日々の生活に戻るという意味があります。

往復一〇〇丁の道のり、下山し最初に思う事はいつも決まって「無事に下山できて本当良かった」。無事に皆がお詣り出来たこと、やり切ったこと、様々な「本当に良かった」に安堵するのです。生まれ変わった自分が最

初にこの娑婆世界で感じさせてもらうのは、地獄でも餓鬼・畜生ではなく、やはり安心や穏やかな気持ちの仏さまの浄土世界。なんと有難い。

実は私たちの世界は、あっちが仏さまの浄土、こっちが地獄ではなく、自分の心の見え方で同じことが浄土にも地獄にも映る。だからこそ蘇り、生まれ変わった時、「日々この心持ちを忘れるでない」と最初に教えて頂けるのは、安かな穏かな仏さまの世界なのだと感じました。

もし目の前のことに迷い、不安を感じたら、お供しますので七面山に一緒にお詣りしましょう。七面山に登詣出来ないのなら、七面山登詣と同じ「生まれ変わる」「蘇生の義」の意味のあるお題目を一緒に唱えましょう。皆さんの一助になれるよう、ここ法住寺の本堂でお待ちしています。

*今年は11月17、18日(土、日)の七面団参を予定しています。

御志納金「三月〜七月」

清水	小塚	智明殿	尊父葬儀砌
伊東市	草山	定胤殿	尊義母葬儀砌
元村	井本	正義殿	尊父葬儀砌
元村	本田	栄一殿	尊母葬儀砌
西	山田	邦光殿	尊父母十七回忌砌
大京	鈴木	崇彦殿	永代供養砌
伊東市	加藤	知代枝殿	永代供養砌
伊豆市	宮崎	啓子殿	永代供養砌



お寺のホームページ

<http://juro.jp/>

検索「伊豆 法住寺」

PC、スマホ対応、カラー